

**問** 外来や入院ではなく、自宅などで診療、治療、処置などを行う「在宅医療」のメリットとデメリットについて、1000字程度で述べなさい。

### 模範解答

近年、超高齢社会の進展に伴い、外来や入院ではなく自宅で診療や治療を受ける在宅医療が注目されている。在宅医療は、患者の生活の場を中心に医療を提供する点で、従来の医療とは異なる価値を持つ。一方で、制度的・人的課題も多く、メリットとデメリットを多面的に捉える必要がある。

まず、在宅医療の最大のメリットは、第一に、患者が住み慣れた環境で生活を続けられることである。特に高齢者や慢性疾患患者にとって、環境の変化は身体的・精神的負担となる。自宅での療養は安心感をもたらし、生活の質（QOL）向上につながる。また、家族が日常的に患者の様子を把握できるため、医療者と家族が協力しながらケアを進めやすい点も利点である。第二に、医療資源の効率化という社会的メリットもある。入院医療は高コストであり、病床の不足が問題となる中、在宅医療は医療機関の負担軽減に寄与する。さらに、ICTを活用した遠隔診療やモニタリング技術の進歩により、在宅でも安全性の高い医療提供が可能になりつつある。

一方で、在宅医療にはいくつかのデメリットも存在する。第一に、家族の負担が増大しやすい点である。介護や見守りの多くを家族が担う場合、身体的・精神的負担が大きく、介護離職など社会的問題を引き起こす可能性がある。家族のサポート体制が不十分な場合、在宅医療の継続は困難となる。第二に、医療者の負担や地域差の問題がある。在宅医療は訪問診療や24時間対応が求められることが多く、医師・看護師の負担は大きい。また、都市部と地方では提供体制に格差があり、地域によっては十分な在宅医療が受けられない現状がある。さらに、急変時の対応の難しさも課題である。病院と異なり、専門機器やスタッフが即座に揃わないため、緊急時には迅速な判断と連携が不可欠となる。安全性を確保するためには、地域包括ケアシステムの整備や救急との連携強化が求められる。

以上のように、在宅医療は患者の生活の質向上や医療資源の効率化といった大きなメリットを持つ一方、家族負担や地域格差、急変時対応などの課題も抱えている。今後は、家族支援の充実、ICTの活用、地域医療体制の強化を進めることで、在宅医療の利点を最大限に生かしつつ課題を克服していくことが求められる。